

フィンランド
SUOMI
FINLAND



EXPO
2005 AICHI
JAPAN



フィンランドのナショナル・デー
2005 年5 月12 日

フィンランドでは日本に親近感があります。都市部が広大な自然に囲まれた日本の方々と同じく、森と湖の国のフィンランド人が自然を愛しているのは申し上げるまでもありません。そして両国民とも、「自然の叡智」と調和するために、沈黙と謙虚さを重んじています。

フィンランドでは自然を愛する日本の方々に、存分に観光をお楽しみいただけます。フィンランドの景色には、混在する森林と湖、独自の島国構造、原野、近代的な都市、四季、オーロラがあり、それこそ何千人もの欧州やアジアの旅行者の方々に魅了していますが、更に多くの旅行者の方々をお迎えます。ムーミンとサンタクロースの国フィンランドが、日本からご友人である皆様を暖かくお迎えいたします。

日本は、欧州連合諸国を除くと、フィンランドにとって3番目に大きい貿易相手国で、商業的にも重要です。フィンランドが日本の投資家の方々にご提供できるものは多数あります。フィンランド経済は、競争激しい世界の諸国の中で、常に上位にあります。社会的な設備基盤も素晴らしく、人材も高水準で、規制環境も公明正大です。更にフィンランドは欧州連合だけでなく、東側の国境では有望な新興市場に接しており、これらの入り口にあるという立地の観点からも、日本企業にとって大いにメリットがあります。

同様に、日本もフィンランドに多くのものを提供なさっています。クリエイティブなセンスで、商業的および投資的な関係を構築する機会が多数あります。この好例が仙台フィンランド健康福祉センターです。これは両国の公共組織や民間企業の間で、2カ国間プロジェクトとして実現しました。数週間前に無事開館し、この分野で両国の協力を更に拡大すべく、将来に向けて道を切り開いています。

日本は歓待の心で知られていますが、この歓待の心をもって、人々を魅了する愛知万博を開催なさった万博事務局に、フィンランドはお祝いを申し上げたいと存じます。北欧パビリオンに是非お越しください。そして、そこでフィンランドからインスピレーションと何か意義あるものを感じていただければと思います。また、この万博でのフィンランド体験を更に進めて、今度はご自身がフィンランドにいらっしゃって、私たちのライフスタイルを実際に「見て」「感じて」ください。

Matti Vanhanen
フィンランド首相



フィンランドのナショナル・デー：2005年5月12日

フィンランド首相のご挨拶

2005年愛知万博のフィンランドのナショナル・デーに、皆様をお迎えできて、非常に嬉しく思っています。2005年愛知万博は、これまでの万博の精神にのっとり、維持可能な開発を求める共通の思いのもと、各国や地域があらゆる人々の業績をお見せする機会となっています。今回の万博は「自然の叡智」というテーマで開催されていますが、確かにこれは今最もタイムリーなテーマです。フィンランドは他の北欧諸国と協力して、自然とハイテクが調和した北欧の「スローライフ」をお見せしたいと思えます。

昨年日本とフィンランドは、外交関係を樹立85周年を迎えました。日本はフィンランドが1917年12月に独立した際に、フィンランドを独立国家として世界で真っ先に認めた国家です。

去年は2カ国間の高官が訪問した年でもありました。最も注目すべきは、フィンランド共和国のTarja Halonen大統領が10月に日本を訪れたことです。これは2000年に日本の天皇陛下と皇后陛下がいらっしゃった返礼でもありました。

両国の関係は嬉しいことに、現在素晴らしい状態であるだけでなく、新しい分野へと拡大しつつあります。日本とフィンランドは、政治面では同じ価値観を共有しています。グローバルな難題に解答を見出すために、両国とも多カ国間協力を重視しているのです。

面積：338,000 m²。このうち10%は湖水で、69%は森林。
湖は187,888湖。
人口：5.2百万人。人口密度は17人/km²。
首都：ヘルシンキ
その他の大都市：Espoo、Tampere、Vantaa、Turku、Oulu
言語：フィンランド語とスウェーデン語
宗教：85.6%が福音ルーテル協会、約1%がロシア正教。
最も重要な輸出セクター：エレクトロニクス27.5%、
機械と金属27.1%、森林関連26.5%、化学関連12%。

「小国の力はその文化にある」とフィンランドの哲学者で政治家でもあるJ.V. Snellmanは述べています。この意味では、フィンランドは強国です。フィンランドの文化的な生活と芸術の特徴は、大胆さ、知的好奇心、雄大さ、新しいものに対する情熱です。地理的にも2つの文化圏に国境を接しているため、繊細で微妙な、そして味わい深い精神的遺産となっています。建築とデザインは、その品質、機能性、簡素な美しさで、広く認められています。フィンランド芸術は、伝統的に実験精神があって示唆に富み、実演さえする余地があります。

フィン・ウグリック語族であるフィンランド人は、しばしば「水鳥」国家と呼ばれます。古代のフィンランド人の生活や信念では、おそらく水鳥が非常に重要だったのででしょう。水鳥の心を受け継いだ人は、自然、人、自分自身と幸せに暮らせるとも言われています。

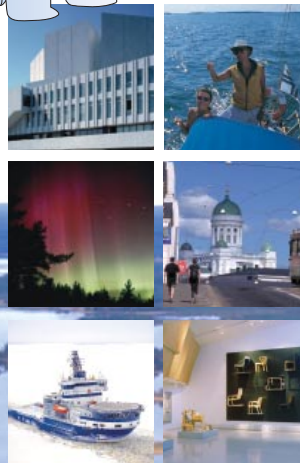
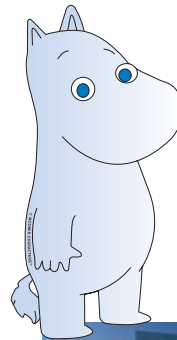


フィンランド

フィンランドは清らかで美しい自然で最もよく知られています。とても小さな国ですが、とても多彩な地形です。南は海の景色から中央部は深い森林、果ては樹木のないラップランドのフィヨルドまで、景色が次々に移り変わっていきます。冬は寒く、夏は快適な暖かさです。この大地と四季の移り変わりが、今までずっとフィンランドのライフスタイルに影響を与えてきました。

フィンランドは、世界でも最も競争力がある国の1つです。21世紀の情報社会を構築しつつあるフィンランド人は、今も教育がフィンランドの成功要因の1つだと考えています。無料の基礎教育と国際的に認められている大学により、将来の難題に対応できるような状況になっています。フィンランドが稀に見る速さで、天然資源に依存した国から、市民や環境にも優しい「知識主導型経済」に変革したのは、全く不思議ではありません。

「緑の宝物箱」である森林は、フィンランドが工業化するチャンスとなりました。最初はタールと木材、次に製紙とセルロースが重要な輸出品でした。今日でも森林は数千人のフィンランド人に、仕事と生活を提供しています。しかし、今度はテクノロジーがフィンランドの最も重要な輸出セクターとして台頭しました。フィンランドは重要なハイテク国家で、その成果は実り豊かです。世界のテクノロジーにおけるフィンランドのサクセス・ストーリーは、今も将来も生き続けることでしょう。



2005年愛知万博におけるフィンランド



EXPOホール
「ロリ」の上映
午後2時と4時

グローバル・コモン（外国館）4

シベリウス高等学校の合唱/ノルディック・ウォーキング
午後12時30分
シベリウス高等学校の合唱/ノルディック・ウォーキング
午後2時30分

EXPOドーム

ナショナル・デーの開催式
午前11時から正午
ジャズとフォーク・ソング
トリオ・トウアケット、カハラとクーシスト
午後3時から4時



北歐パビリオン
パビリオン開館時間
午前9時から午後9時



Anna-Mari Kähärä（カハラ） と Pekka Kuusisto（クーシスト）

Anna-Mari Kähärä(カハラ) は、How Many SistersグループやZetabooなどで力を発揮した作曲家、ピアニスト、声楽家です。プロデューサー、ディレクター、作曲家、編曲家として、様々なジャンルに渡る各種の音楽プロジェクトで功績があります。2002年には、フィンランドのジャズ協会からYrjö賞、そしてSuomi芸術賞を受賞しました。

Pekka Kuusisto（クーシスト）は1995年に最初のフィンランド人として、Jean Sibelius Violin Competitionで受賞しました。素晴らしいコンサート・バイオリニストとして国際的に定評を確立したあと、いくつかの交響楽団で定期的に演奏するゲスト・ソリストとなり、現在では室内楽曲とコンサート・ソリストで知られています。クーシストは演奏手法やジャンルを自由自在に変えます。ジャズではトリオ・トウアケットとの共演で認められ、電子バイオリンでロック音楽にも乗り出しています。クーシストは自分たちのLuomu Playersバンドをバックに、民族音楽も演奏します。

このようにカハラとクーシストは幅広い音楽を対象していますが、この2者が新世紀とともに、一緒に音楽を創造し始めました。レパートリーにはカハラとクーシストの作曲や編曲などがあり、時には陽気に未知のフレーズへと、自由自在に身軽な即興演奏を行います。



トリオ・トウアケット

トリオ・トウアケットは7大陸のうち5大陸を訪問して、43カ国で2,000回以上のコンサートで演奏しています。昨年は15カ国で演奏し、今年も引き続き海外ツアーを行っています。トリオ・トウアケットが最もよく訪問した国は、日本、韓国、オーストラリア、ドイツ、デンマーク、ベネルクス3国とノルウェーです。1988年に、「ほとんど偶然」にトリオ・トウアケットは結成されました。トリオのメンバーは、ピアノのIiro Rantala、ドラムスのRami Eskelinen、バスのEerik Siikasaariで、結成直後の2ヶ月を除き変わりはありません。フィンランドでベストセラーとなったジャズCDなど、これまでに4枚のCDを出しています。ここ数年間トリオ・トウアケットは、Rick Margitza、Jaakko、Pekka Kuusisto、Lew Soloff、Cornell Dupree、Helena Juntunen、Marzi Nymanといったといったソリストと喜んで共演してきました。1995年に世界で初めてユニセフ善意の使節に選ばれたのも、トリオ・トウアケットです。



シベリウス高等学校生徒のコーラス合唱

多数のサウンド、歌、笑い声、音楽への愛。これらを全部合わせると、シベリウス高等学校の合唱になります。この合唱隊は、現在と昔のメンバーで構成され、ここ数年間はMarjukka Riihimäkiが指揮しています。

合唱団のレパートリーには、フィンランド人作曲家の作品やフィンランドの愛唱フォークソングもあります。



アカペラ・グループのRajaton

Rajatonは、6人のシンガーから成るアカペラ（無伴奏合唱）のグループで、1997年秋に結成されました。短期間のうちに国際的にトップに躍り出たRajatonは、フィンランド人にアカペラ音楽を紹介した先駆者です。Rajatonはジャズ・フェスティバルと教会の双方で、宗教音楽からポップスまであらゆる歌を歌っています。グループのメンバーは、Essi Wuorela（ソプラノ）、Virpi Moskari（ソプラノ）、Soila Sariola（アルト）、Jussi Chydenius（バス）、Hannu Lepola（テノール）、Ahti Paunu（バリトン）です。シンガーの音楽的な経歴は、クラシックから民族音楽、ポップスとロックまで様々です。この多彩なメンバーで、まさにRajaton独自のサウンドが生まれるのです。

Rajatonの高まる人気は、最近では2003年末に発表されたアルバム「Joulu」に見てとれます。新旧のクリスマス・キャロルを歌うこのアルバムは、フィンランドの音楽チャートで第2位にまで上昇し、ゴールド・アルバムとなりました。